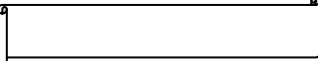


これだけは知っておこう！ しておこう！

～ 緑内障 ～

「緑内障」は中高年に多く、日本では40歳以上の約17人に1人とされています。しかし実際に治療を受けているのは約2割。多くの方が自分が緑内障であると気付いていないこととなります。初期には自覚症状がほとんどなく、気付にくい病気なのですが、早期に発見して「手遅れ」を防げば、普段どおりの生活を送れる病気なのです。今回は緑内障についてです。



緑内障は、何らかの原因で視神経が障害され視野(見える範囲)が狭くなる病気で、眼圧の上昇がその病因の一つとされています。一昔前までは緑内障は眼圧が上がって視神経が障害される病気と言われていましたが、その後、実際は“眼圧が正常でも眼圧が高い時と同じように視神経が障害される正常眼圧緑内障”というタイプの緑内障が以前から言われていたいわゆる“眼圧が高いタイプの緑内障”よりも多いことがわかりました。

緑内障は視神経が障害され進行すると図1のように視野欠損(見えないところ)が徐々に増え、最後には視力も低下し失明してしまう病気です。視神経は一度障害されると元には戻らないので緑内障の治療は視神経障害の進行を止めるか遅くすることです。

一口に緑内障と言っても眼圧の高いものから眼圧が正常であっても緑内障になってしまうタイプ、急性のもの、慢性のもの…とさまざまです。主な治療は眼圧を下げることで目薬や

緑内障になりやすいのはこんな人💡

- ・強度の近視がある人
- ・遠視の人
- ・親、兄弟に緑内障の人がいる
- ・もともと眼圧が高めの人
- ・年齢が40歳以上

飲み薬、手術などの方法があります。

このように緑内障は一度悪くなると元に戻らないので、診療の鍵は早期発見、早期治療ということになります。早く見つけるために、健康診断など、定期的に眼科医による検査を受けることが大切です。普通の方は、日常とくに気をつけることはありません。高齢者に多く、遺伝するものもあるので、40歳以上の人や、緑内障の家系の方は、早めに定期検診を受けて下さい。気が付かず、失明ということにならないように、自分の目は自分で守りましょう。



正常



初期



中期



末期

マリオットの盲点
(乳頭に対応するところで誰でも見えないところ)

↑ << 図1 >>

こんな時に気づくこともあります

- 本を読んでいる時に…



縦書きの本や新聞を読んでいる時に、視線を落とした文字のすぐ上の文字が見えない。

- 片目を閉じて化粧をしている時に…



両目で見ていると気にならないが、片方の目で一点を凝視すると見えにくい部分がある。

- カメラのファインダーをのぞいた時に…



どちらか片方の視野が欠けていても、もう片方の目がそれを補ってしまい、両目では見え方の変化がわからないため注意が必要です。